

第 111 回日本泌尿器科学会総会  
ダイバーシティ推進委員会企画プログラム

日時：令和 6 年 4 月 26 日（金）

13：30～15：30（第一部は指導医教育コース認定プログラム）

会場：第 4 会場

テーマ「さあ目指そう DE&I , Beyond Boundary」

第一部：DE & I (Diversity (多様性), Equity (公平性) & Inclusion (包含))

とは？ ダイバーシティ推進委員会が目指すもの

13：30～14：30（60分 指導医教育プログラム）

座長： 富田 善彦 （新潟大学泌尿器科）

山本 恭代 （徳島大学泌尿器科）

講演 I：30分

演題名：ダイバーシティ エクイティ&インクルージョン ～そのために何が  
必要か？～

演者：日高 乃里子

大阪大学 ダイバーシティ&インクルージョンセンター教授

日本泌尿器科学会の女性会員は近年増加し約 9%となったが、黄金の 3 割理論で示されている多数派や少数派といった意識がなくなるティッピングポイントの 35%からはほど遠い。ダイバーシティ推進委員会は何のためにダイバーシティを推進するのか、それは違いを活かして競争優位につなげるよう戦略的状況にもっていくことであり、時間がかかる長い旅である。DE & I を組織ですすめるために必要なのは人種、性別、居住地などマジョリティ特権のある人が十分理解した上でマイノリティに対して行動を起こすことであると解説いただいた。指導医に向けて、ダイバーシティ推進には制度を整備するのみでは不十分であり、労働環境の改善、風土改革、組織改革が必要であると語ってくださった。

講演 II：30分

演題名：トイレと多様性

演者：加藤 篤

日本トイレ研究所代表理事

トイレとは人の健康、生活の衛生、環境の保全に必要な社会システム（ライフライン）であり、性別に関わらず使用できるオールジェンダートイレが話題になったが、1か所のトイレ単独で考えるのではなくエリア全体で捉え社会との対話を重ねながら改善し続けることが大切であると解説いただいた。また、災害時のトイレ問題に長年取り組まれてきた経験から、不衛生なトイレによる感染症、水分摂取を控えることによる災害関連死、心理的負担による不和から、トイ

レの問題が被災者の命に係わる重要な問題であることが示された。備えがない状態ではトイレ問題に対応することは極めて困難であり、日常診療において排泄の問題を多く扱う我々泌尿器科医が知っておくべきこととして解説いただいた。会場では、ダイバーシティ推進委員会から携帯トイレを配布した。200名以上の参加があり、100個用意した携帯トイレが不足するほどの盛況であった。



## 第二部：いよいよ始まった医師の働き方改革 2024 本音で話そう、どうする？ 泌尿器科医の自己研鑽

14:30～15:30(60分)

座長： 土谷 順彦 (山形大学泌尿器科)

樋口 まどか (北海道大学泌尿器科)

講演Ⅰ：

演題名：LGBTQ+の社会状況と自己研鑽

演者：松尾 かずな (名古屋大学泌尿器科)

講演Ⅱ：

演題名：妊娠から育児期間中の自己研鑽 ～皆どうしてる？～

演者： 篠木 理沙 (横浜市立大学泌尿器科)

講演Ⅲ：

演題名：専門医も指導医もサブスペ専門医も取得済み。中堅以降の自己研鑽～40歳からの泌尿器科医についての考察～

演者： 松下 千枝 (済生会中和病院泌尿器科)

講演Ⅳ：

演題名：医局の管理者からみた自己研鑽

演者： 赤松 秀輔（名古屋大学泌尿器科）

ダイバーシティ推進委員の4名からそれぞれの立場で自己研鑽について語っていただいた。LGBTQ+を対象としたインターネット調査結果からみえる現状、女性にとって大きなライフイベントである妊娠・出産・育児期のキャリア形成、さらに十分自己研鑽を積んだ中堅以降に更年期を迎えた現状とその後の選択、働き方改革を各個人の努力のみで何とか乗り切るのではなく本来の目的に沿ったものとして行うための医局の管理者からの要望、など多岐にわたる内容であった。参加された先生方からもそれぞれのライフステージに応じて、共感を得られたようで好評であった。十分なディスカッションの時間が確保できなかったことが残念である。

今後もダイバーシティ推進委員では、会員の先生方のお悩みに沿ってワークもライフも快適なものとするために有用なプログラムを企画していく予定である。ぜひ多くの会員にご参加いただき、意見・要望・感想などをお聞かせ願えたら幸いである。

文責) 日本泌尿器科学会 ダイバーシティ推進委員会 山本恭代

